

駒工高

バイク開発や 夢の大切さ語る

元ホンダの山中さん講演

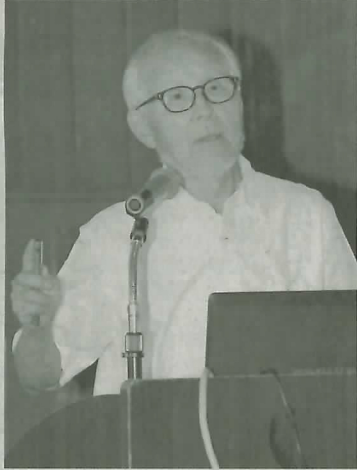
駒ヶ根工業高校(駒ヶ根市)は19日、ホンダの研究開発機関、本田技術研究所でバイク開発に長年携わった山中敷さん(72)＝浜松市＝の講演会を同校体育館で開いた。生徒や一般来場者ら約150人が聴講。山中さんは「夢を指す」と題して、どのようにして設計者になったか、夢を持つ大切さなどを話した。

山中さんは「バイクを自分

で造ったら楽しそう」と中学生時に開発者の夢を掲げた。実現のため地元元工業高校を卒業し、ホンダに入社。しかしすぐに開発に携わることはできず、下積みを経て10年後、ようやく同研究所への転勤となったという。「頑張っていればチャンスは回ってくる。夢を持つ人と、そうでない人では差がある」と語った。

山中さんは1970年代から、競技用の「RCB1100」や一般用の「CB1100R」といったバイク開発に尽力。97年に発売した「CBR1100XX」の紹介では高速安定性やブレーキ性能などを追求した際の苦労話を披露し、「結果として『世界で一番面白いバイク』と評価されたことが自慢」とした。

「大きな夢にはリスクがある。壁は一つずつ越えていくもの」と山中さん。「夢のある人は目標がある。目標のある人は計画がある。計画がある人は行動できる。行動できる人は結果が出る。結果は自分の財産で、自信になる」と呼び掛けた。



「夢を指す」と題して講演する山中さん

(布袋宏之)